

TZ 〈ほんの窓〉

第 15 号 (2008. 5. 12) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

翻訳と日本文化

翻訳王国と言われる日本では、古来より多くの翻訳書が出版されており、日本文化に多大なる影響を与えてきました。また、現在でも文学などの分野を中心に新訳が次々と出版されるなど、翻訳書は、日本では高い地位を保っていると言えます。今回の小展示では、日本における翻訳を文化論的歴史的観点から考察した本を紹介します。日本における翻訳の歴史を紐解き、翻訳と日本文化の関係について考えてみませんか。

■ 入門書として

翻訳という形で日本に輸入された海外の学問・文化は、それぞれの時代で日本の近代化に大きな影響を与えてきました。翻訳によって、海外の学問・文化が短期間に多くの人に普及し、日本文化の変容をもたらしたのです。また、日本では、それまでの伝統的な学問や文化の中にはなかった新しい概念は、漢字の組み合わせで翻訳されることが多く、その翻訳手法自体が対象分野の受容に影響を与えました。

1. 『翻訳と日本の近代』 丸山 眞男著, 加藤 周一著 — 岩波書店, 1998.10 (岩波新書) 【0800:33:新赤 580】
2. 『翻訳と日本文化』 芳賀徹編 — 国際文化交流推進協会, 山川出版社 (発売), 2000.4 (シリーズ国際交流 ; 5) 【8000:334】
3. 『翻訳文化を考える』 柳父章著 — 新装版, 法政大学出版局, 2002.6 【8100:895】
4. 『明治大正翻訳ワンダーランド』 鴻巣友季子著 — 新潮社, 2005.10 (新潮新書 ; 138) 【9100:1730】
5. 『輸入学問の功罪 : この翻訳わかりますか?』 鈴木直著 — 筑摩書房, 2007.1 (ちくま新書 ; 637) 【1000:305】
6. 『聖書の日本語 翻訳の歴史』 鈴木範久著 — 岩波書店, 2006.2 【1900:831】

■ 明治期日本の翻訳

明治期日本においては、膨大な量の西洋の文献が日本語に翻訳されました。量だけでなく領域的にも網羅的・広汎であった翻訳文献は、明治の社会と文化に大きな影響を与えました。例えば、現代の私たちが慣れ親しんでいる日本語の文体は、明治期の西洋の文献の翻訳過程において確立されました。

12. 『翻訳の思想』 加藤周一, 丸山眞男校注 — 岩波書店, 1991.9 (日本近代思想大系 ; 15) 【OAe:220:15】【131:93:15】
13. 『近代日本語の思想 : 翻訳文体成立事情』 柳父章著 — 法政大学出版局, 2004.11 【8100:672】
14. 『翻訳とはなにか : 日本語と翻訳文化』 柳父章著 — 新装版, 法政大学出版局, 2003.5 【8000:657】
15. 『歴史の文体小説のすがた : 明治期における言説の再編成』 谷川恵一著 — 平凡社, 2008.2. 【9100:2036】
16. 『森鷗外 : 文化の翻訳者』 長島要一著 — 岩波書店, 2005.10 【0800:33:新赤 976】

■ 漢文・オランダ語からの翻訳

明治以降の西欧言語からの翻訳は、漢文・オランダ語からの翻訳の経験というそれ以前の日本における歴史を抜きには語ることはできません。その経験が明治以降の西欧言語からの翻訳技法にも影響を与えました。

7. 『解体新書の時代 江戸の翻訳文化をさぐる』 杉本つとむ著 — 早稲田大学出版部, 1987.2 【4000:445】
8. 『近代日本語の成立と発展』 杉本つとむ著 — 八坂書房, 1998.5 (杉本つとむ著作選集 ; 2) 【8100:896:2】
9. 『増訂 日本翻訳語史の研究』 杉本つとむ著 — 八坂書房, 1998.7 (杉本つとむ著作選集 ; 4) 【8100:896:4】
10. 『江戸異言語接触 : 蘭語・唐語と近代日本語』 岡田袈裟男著 — 笠間書院, 2006.3 【8000:573】
11. 『日本洋学史 : 葡・羅・蘭・英・独・仏・露語の受容』 宮永孝著 — 三修社, 2004.6 【8000:465】

■ 翻訳される日本文学

近年は、日本文学の外国語への翻訳も盛んに行われています。その代表例として、2 『翻訳と日本文化』で紹介されている源氏物語や、村上春樹の英訳をそれぞれ読み比べてみてください。どのように翻訳されているか、あるいは何が翻訳されていないかといった視点から読むことによって日本の外からみた日本文化ともいべきものが浮かび上がってきます。ここでは、合わせて両者の翻訳に関する研究書・評論も紹介します。

源氏物語の翻訳

源氏物語は、日本でも多くの現代語訳が出版されていますが、海外においても各国語によって翻訳されており、研究も盛んに行われています。ここでは、源氏物語の英訳として有名な3つの翻訳を紹介します。

アーサー・ウェーリー訳（1925-1933 初版）

17. *The tale of Genji: a novel in six parts / by Lady Murasaki; translated from the Japanese by Arthur Waley* — 1st Modern Library giant ed. — Modern Library, 1960 【052:5】

エドワード・サイデンステッカー訳（1976 初版）

18. *The tale of Genji / Murasaki Shikibu; translated with an introduction by Edward Seidensticker* — Knopf, c1976, 2 v. 【052:4】

ロイヤル・タイラー訳（2001 初版）

19. *The tale of Genji / Murasaki Shikibu; translated by Royall Tyler.* — Penguin, 2002 【9100:39】

源氏物語翻訳の研究書

20. 『海外における源氏物語の世界：翻訳と研究』伊井春樹編 — 風間書房, 2004.6 (国際日本文学研究報告集 ; 3) 【9100:2037】
21. 『世界文学としての源氏物語：サイデンステッカー氏に訊く』[エドワード・G・サイデンステッカー述]；伊井春樹編 — 笠間書院, 2005.10 【9100:1728】

村上春樹作品の翻訳

村上春樹の作品は、その長編小説のほとんどが英訳されていますが、その中から村上春樹の翻訳者として有名な2人の翻訳を紹介します。(※村上春樹の原著作は、『村上春樹全作品：1979～1989』【9180:33】『村上春樹全作品：1990～2000』【9180:204】で読むことができます。)

アルフレッド・バーンバウム訳

22. *Hard-boiled wonderland and the end of the world: a novel / by Haruki Murakami; translated by Alfred Birnbaum* — Vintage Books, 1993 【9100:40】 > 『世界の終わりりとハードボイルド・ワンダーランド』(1985)の英訳

ジェイ・ルービン訳

23. *The Wind-Up Bird Chronicle / Haruki Murakami; translated from the Japanese by Jay Rubin.* — Vintage, 2003 【9100:38】 > 『ねじまき鳥クロニクル』(1994-1995)の英訳

村上春樹作品の翻訳について書かれている本

24. 『越境する「僕」：村上春樹、翻訳文体と語り手』風丸良彦著 — 試論社, 2006.5 【9100:2044】
25. 『村上春樹はどう誤訳されているか：村上春樹を英語で読む』塩濱久雄著 — 若草書房, 2007.1 (Murakami Haruki study books ; 5) 【9100:1763:5】
26. 『世界は村上春樹をどう読むか』柴田元幸 [ほか] 編 — 文藝春秋, 2006.10 【9100:1867】